

令和5年笛吹市議会第1回定例会の告示に伴う  
記者会見質疑応答（要約）

■記者

春日居支所を移転することの背景と狙いをお願いします。

■市長

支所の隣にある、春日居めぐり情報ステーション内にある図書館横のスペースが空いていて、非常にもったいない。現在の春日居支所は建物が古く狭いので、そちらの建物と統合させ、支所は倉庫として使用します。そのような背景で一緒にするという事です。

■記者

御坂の学童保育施設の整備ですが、御坂地区の学童保育クラブは何カ所あるものを集約するのか。詳しい内容とあと今後のスケジュール感を伺います。

■市長

現在、御坂児童センターに隣接している御坂農村環境改善センターについては、集会施設として、地域の方が打ち合わせなどに使用していますが、アスベストが使用されている上に、2階部分はほとんど使用されていない状況です。だからと言って、新規で建て直すわけにもいかないのです。どうするか検討していたところ、職員から隣の福祉センターが空いているので、そちらを利用したらいかがかと提案がありましたので、調べてみるとほとんど空いているので、農村環境改善センターを取り壊して、農村環境改善センターの機能を福祉センターに移し、そして空き地になった場所に新たな学童保育施設を整備して、現在分散している御坂学童保育施設を集約します。完成形を見るには少し大掛りになります。

■記者

令和5年度1億9500円計上していますが、この使い道とスケジュール感をお願いします。

■財政課長

まずスケジュールですが、御坂農村環境改善センター、御坂中央弓道場の解体工事を令和6年2月まで、その後に、地盤調査と造成工事を令和5年度は行う予定となっております。この工事請負費については、御坂農村環境改善センターの解体工事費、1億4300万円と御坂中央弓道場の解体工事費2200万円、ほか造成工事費となっております。

■記者

現在、御坂の学童保育は学校とどこで行っているのですか。

■総務部長

御坂児童センターで開始しましたが、児童数が増えてきて収容しきれなくなったので、保健センターの空いている部屋を借りましたが、それでも足りなくなり、学校の空き教室も一つ使用して、3カ所で行っています。  
今ある児童センターに隣接して増築するような形で1カ所に集約します。

■記者

令和5年度の新年度当初予算案について確認です。  
新規事業で果樹盗難防止システム構築事業がありますが、去年だいぶ盗難被害等々もあったと思います。それを受けてのことという理解でよろしいでしょうか。

■市長

そのとおりです。  
当然のごとく、去年の盗難があったことが最終的な結果ですが、私が就任したときからこの市町村でも一生懸命やっているんです。  
取られる前の抑止をしたいのだが、提案いただいていたシステムは取られた後のものが多い。南アルプスの農協が行っている、円柱で畑の中に置いてセンサーを張って、そして不審者が来たときには鳴らすというシステム。そういうことが全体できないのか

と、担当課に相談したら、できる感じになりそうなので、本気でそれを今回の事業者と組んで研究しています。

■記者

この事業の導入年度のスケジュールを確認させてください。

■財政課長

スケジュールについては、既にシステムの開発には着手しておりまして、令和5年度は收音、データ受信など実証実験を重ね、令和6年4月から運用を開始する予定で進めています。

■記者

多目的芝生グラウンドについて、来年度以降の見通しスケジュール、来年度何をされるのかというところをお伺いします。

■政策課長

来年度は基本設計を行います。

基本設計や、現況調査や地質調査、あと地元の説明会等を行っていくという計画でございます。

■記者

地元の方にはもう説明はされているのでしょうか。

■政策課長

基本計画が出来上がりましたら、また説明をさせていただきたいと考えております。

■記者

来年度は基本計画、基本設計、現況調査、地元説明ということですが、再来年度以降というのはどのような予定でしょうか。

■政策課長

今基本計画を作ってるところなので、その中で来年度以降のスケジュール等もお示ししていきたいと考えています。

■記者

高齢者ゴミ出し支援事業というのについてですが、この対象となる世帯数や人口は分かかりますか。

■財政課長

対象者は、笛吹市に住民登録されている75歳以上の住民税非課税世帯で、要介護1以上の認定を受けている者のみによって構成される世帯ということで、今のところ696世帯を想定しております。

■記者

人数でいうとどれぐらいになるのでしょうか。

■財政課長

約800人位です。

■記者

具体的に支援というのは、どんな人が何をしてくれるということなんですか。

■市長

シルバー人材センターのワンコインサービスを利用して、500円でごみ出しをしてもらいます。市で250円を補助して、高齢者の方には半額の250円でそのサービスを使っただくということです。

■記者

本来は500円かかるところを、半額の250円補助すると、その補助の金額が計上されているということですか。

■市長

そうです。

■記者

一般会計の予算規模ですが、増額となるのは、何年ぶりだとか何年連続だとか、予算規模としては過去最大になるとか、そういうことがありますか。

■財政課長

予算規模としては、過去最大となっております。

■記者

増額はずっと続いているのでしょうか。

■財政課長

3年ぐらいは増額が続いています。

■市長

私が6年前に就任したときからは300億円規模位でかなり絞ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の辺からは右肩上がりです。

ちなみに、私が就任してから6年間で約100億円の借金を減らし、33億円の基金を積み立てました。

■記者

一度減額して、3年間増額が続き過去最大になりましたという理解でよろしいですね。

■記者

2点について、教えてください。

世界農業遺産認定活用事業のところに観光コンテンツを造成とありますが、具体的に何かハードを造成するイメージがあれば教えていただきたいのが一つ。

もう一つは、防災行政無線高度化事業で防災アプリの導入とありますが、特徴があれば教えてください。

#### ■財政課長

世界農業遺産認定活用事業は、世界農業遺産に認定された峡東地域を軸にした周遊ツアーの作成などには旅行代理店等の知識が必要となるため、業務委託により整備を行うものです。また、市内に宿泊及び市内施設を利用した観光客の方に対し、1泊当たり1000円を割引するキャンペーンなどを実施する予定です。

#### ■総務部長

防災アプリについては、スマートフォンに専用アプリを入れてもらうことで、現在、防災無線で放送している内容をスマートフォンから音声で聞くことができるものです。戸別受信機に代わるものとして簡易に入れられるということで、新しく導入したいということです。

防災無線の内容を文字でメール配信するというサービスは既にあるのですが、高齢の方から音で聞きたいという希望が寄せられています。今は高齢の方も結構スマートフォンを持っていますので、室内でも聞いていただけるアプリを導入する。

特に台風などのときは、雨戸を閉め切っている上に、暴風雨の状況での放送になるので、外部スピーカーからの放送を家の中で聞くことは難しい状況があります。様々な方法で防災に関する情報をお届けしたいということで、多チャンネル化を進めていきたいと思っています。

スケジュールですが、来年度中には導入する予定です。

年度早々に手続きを始め、入札契約、その後の施行ということで、来年度内に設置が完了するスケジュールです。

#### ■記者

新道峠展望台環境整備事業ですが、すずらん群生地駐車場に観光施設を整備するとありますが、何を整備するのですか。

#### ■市長

売店をつくれます。

すずらん群生地駐車場までの道路を整備して、自家用車やバスでここまで来てもらう。そこからFUJIYAMAツインテラスバス停まで送迎バスでピストンする計画です。

以上